記者発表資料

いのちとくらしをまもる
防　災　減　災

令　和　２年　６月　２９日
東　北　地　方　整　備　局
岩木川ダム統合管理事務所

防災通信訓練を実施します

訓練に併せ「3.11 伝承ロード」パネルの展示を行います

東北地方整備局では、頻発する豪雨災害等に備え、自治体等からの支援要請を受けた場合に、いち早くTEC-FORCE（テックフォース）（緊急災害対策派遣隊）を派遣し、被災状況調査、災害対策用機械による応急復旧など早期復旧に向け自治体支援を行っています。

本訓練は、災害対策本部車、衛星通信車などによる現地災害対策本部と被災現場を各種移動通信機器で接続し、黒石市への各種画像配信等を行うと共に黒石市長とのテレビ会議システムによる迅速な情報共有を通じて、災害支援体制の強化を図ることを目的に実施します。

また、併せて東日本大震災から９年が経過し、今なお復興途上にありますが、あの災害を忘れず後世に伝承するためパネルの展示を行います。

１．訓練

（１）実施日：令和2年7月７日（火）10：00～15：00　（**予備日**：7月22日（水））

当日の訓練の取材については、13：30から黒石市役所駐車場、整備局災害対策室

※当日の気象条件等により、訓練を延期もしくは訓練内容を一部変更する場合は、岩木川ダム統合管理事務所ホームページでお知らせします。

http://www.thr.mlit.go.jp/iwakito/

（２）訓練想定

・豪雨により、国道102号青森県黒石市厚目内地区の土砂崩落により孤立集落が発生

・黒石市役所に派遣したリエゾン情報により、画像提供等の支援

（３）訓練概要

① **道の駅「虹の湖」（想定災害現場）**：青森県黒石市

・「車載型衛星通信装置（Car-SAT）」、「衛星小型画像伝送装置（Ku-SAT）」、「公共ブロードバンド移動通信システム（公共BB）」を用いた被災現場からの画像伝送訓練

② **黒石市役所（現地災害対策本部）**：青森県黒石市

・「災害対策本部車」、「衛星通信車」、「5GHz 帯無線アクセスシステム（i-RAS）」 を用いた通信回線の設営訓練

③ **東北地方整備局、青森河川国道事務所、岩木川ダム統合管理事務所**

・テレビ会議システムを活用した黒石市との情報共有訓練

（４）訓練参加者

東北地方整備局、青森河川国道事務所、岩木川ダム統合管理事務所、高瀬川河川事務所、黒石市、災害協定提携会社

２．「3.11 伝承ロード」パネル展

（１）展示期間　：　令和2年7月１日（水）～令和2年7月７日（火）10：00～16：00

（２）展示場所　：　黒石市産業会館　1F 展示室

＜発表記者会＞宮城県政記者会、青森県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会
弘前記者会、黒石記者クラブ、専門紙各社

【訓練に関しての問い合わせ先】

国土交通省　東北地方整備局　防災室　TEL：022－225－2171（代表）

防災情報調整官　宮永　悠平　（みやなが　ゆうへい）　（内線２１２４）

防災室長　本木　雅信　（もとき　まさのぶ）　（内線２１５１）

国土交通省　岩木川ダム統合管理事務所　TEL：017－734－4521（代表）

副所長（技術）　佐々木良浩　（ささき　よしひろ）　（内線２０４）

建設専門官　荒川　晋　（あらかわ　すすむ）　（内線４０３）

【パネル展に関しての問い合わせ先】

国土交通省　東北地方整備局　企画部　TEL：022－225－2171（代表）

建設専門官　佐々木　博樹　（ささき　ひろき）　（内線３１５３）

防災通信訓練　位置図



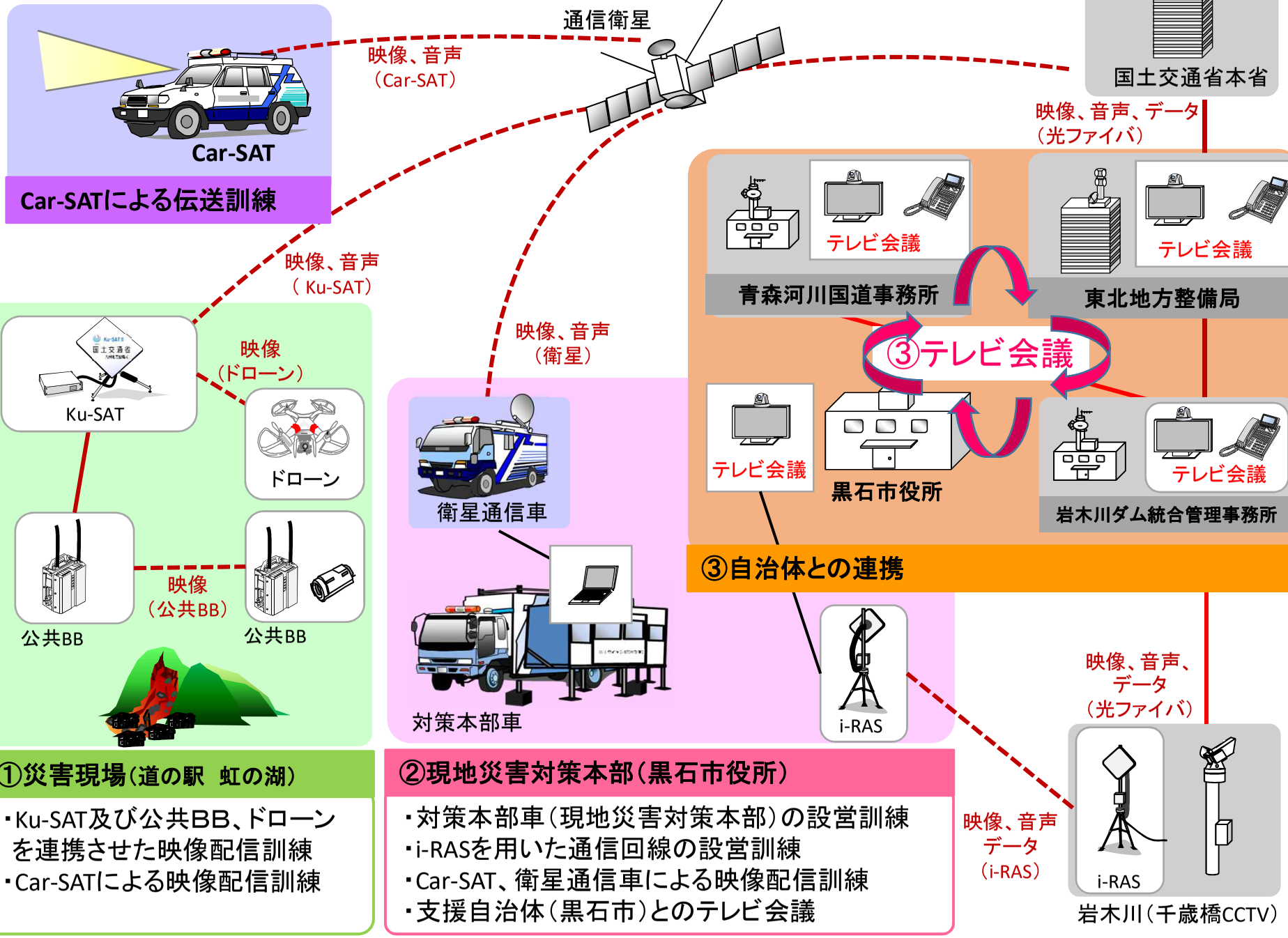


この地図は、国土地理院院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。
【承認番号　令1東複、第24号】

防災通信訓練　スケジュール

時間	対　応	場所
	移動・設営訓練	
10:00	防災通信訓練開始	
	i-RAS設営訓練	②
11:00	災害対策用機器派遣訓練（移動）	②
	Ku-SAT設営訓練	①
12:00	災害対策本部車設営完了	②
	設営・接続訓練	
13:00	衛星通信車設営訓練	②
	公共BB設営訓練	①
	映像配信訓練	
13:30	多様な通信機器を活用した情報伝達訓練	①
	・Car-SAT、公共BB、ドローンを用いた被災現場からの映像伝送訓練	
14:15～	関係機関との情報共有	②
14:30	・テレビ会議システムを活用した支援自治体（黒石市）との情報共有	
15:00	訓練終了	

防災通信訓練　全体概要図



①災害現場（道の駅　虹の湖）

- Ku-SAT及び公共BB、ドローンを連携させた映像配信訓練
- Car-SATによる映像配信訓練

②現地災害対策本部（黒石市役所）

- 対策本部車（現地災害対策本部）の設営訓練
- i-RASを用いた通信回線の設営訓練
- Car-SAT、衛星通信車による映像配信訓練
- 支援自治体（黒石市）とのテレビ会議

防災通信訓練　主な防災通信機器の概要



・車両に乗車しながら、搭載したカメラで撮影した映像を衛星回線経由で伝送するシステムです。
・被災地の状況を走行しながらリアルタイムに途切れること無く、安定的に対策本部などへ配信することができます。

Car-SAT（車載型衛星通信装置）



・アンテナの対向通信で約30km程度離れた地点から、映像や音声の配信を可能とする装置です。
・現地災害対策拠点に執務室と同様の環境を構築できます。

i-RAS（5GHz帯無線アクセスシステム）



・災害現場で指揮を行う車両で、現地災害対策本部として機能します。
・情報収集のため各種通信機器を装備しています。
・車内でテーブル等を設置し10名規模の打合せが可能です。

災害対策本部車



・約5km程度の範囲を移動しながら映像や音声を伝送可能な装置です。
・障害物による遮蔽等に強いため、車両の進入が困難な災害現場において移動しながらの映像伝送が可能です。

公共BB（公共ブロードバンド移動通信システム）



・衛星通信装置を搭載した車両で、災害現場の映像を送受信したり、通信を確保したり、災害現場の状況把握に利用します。

衛星通信車



・持ち運びできる衛星小型画像伝送装置で、災害現場において衛星回線を用いて映像を伝送することができます。

Ku-SAT（衛星小型画像伝送装置）



・i-RAS、公共BB等による自営回線を構築することで、災害時にもテレビ会議システムの設営を行うことができます。

テレビ会議システム

TEC－FORCE（緊急災害対策派遣隊）の概要

国土交通省

TEC－FORCEとは

※TEC-FORCE（Technical Emergency Control FORCE）：緊急災害対策派遣隊

○大規模自然災害への備えとして、迅速に地方公共団体等への支援が行えるよう、平成20年4月にTEC-FORCEを創設し、平成30年で10年を迎えた
○TEC-FORCEは、大規模な自然災害等に際して、被災自治体が行う被災状況の迅速な把握、被害の拡大の防止、被災地の早期復旧等に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施
○本省災害対策本部長等の指揮命令のもと、全国の地方整備局等の職員が活動（14,386名の職員を予め指名（R2.4.1現在））
○TEC-FORCEは「南海トラフ地震防災対策推進基本計画（R元.5 中央防災会議）」、「首都直下地震緊急対策推進基本計画（H27.3閣議決定）」等に位置付けられている

活動内容

➢ 災害対策用ヘリコプターによる被災状況調査





【H27.9 関東・東北豪雨】
（茨城県常総市）

➢ 市町村へのリエゾン派遣



【 H27.5 口永良部島の火山活動 】
（鹿児島県屋久島町）

➢ 被災状況の把握



【 H29.7 九州北部豪雨 】
（福岡県東峰村）

➢ Ku-SAT※による監視体制確保



【 H26.9 御嶽山の噴火 】（長野県王滝村）
※Ku-SAT：衛星小型画像伝送装置

➢ 自治体への技術的助言



【 H28.4 熊本地震 】
（熊本県庁）

➢ 排水ポンプ車による緊急排水



【 H30.7月豪雨】
（岡山県倉敷市真備町）

➢ 捜索活動への技術的助言



【 H28.4 熊本地震 】
（熊本県南阿蘇村）

「３．１１　伝承ロード」パネル展

○「３．１１ 伝承ロード」とは？

・「3.11伝承ロード」とは、東日本大震災の事実や記憶、経験や教訓を伝えることで結ばれて新たにできる教訓・伝承の道（取組み）のことです。

①震災伝承施設の活用
②教訓のアーカイブ化
③防災力の向上
④交流促進による地域の活性化

などを産学官民が連携した取組みを継続的に実施し、被災地の復興の加速化に貢献するものです。

▼「３．１１伝承ロードパンフレット





パネル展示の様子

